



子ども樹木博士 ニュース

2026 - 9

No.104

子ども樹木博士認定活動推進協議会

巻頭言

AIがあれば 「子ども樹木博士」はいらない？



日本大学生物資源科学部教授／子ども樹木博士認定活動推進協議会会長 杉浦克明

皆さんは通学や通勤で通る道にある樹木を何気なく見ていると思います。今の季節は、木陰をつくり暑さを和らげてくれます。私も通勤途中の木陰に入り、少しでも汗をかかないようにしています。秋には紅葉し、冬には葉を落として四季折々の姿を見せてくれています。しかし、その姿をいつも目にしている、「何という名前の木だろう」と考えることは意外と少ないのではないのでしょうか。

名前を知るとは、樹木を知る最初のステップと考えるのもいいと思います。いつも通る道にある樹木の名前を知り、その樹木に目を向けるだけでも、「ただの樹」だと思っていたものが、より身近に感じ、それぞれの違いや特徴が見えてきます。「よく見るとこんな花をつけるんだ」「この時期に実をつけるんだ」といった新しい発見が次々と生まれます。例えば、コナラの花は黄緑色で目立たない地味な感じですが。意外と花と認識していない人も多いと思います。コナラの花を知らない方はぜひインターネットで調べてみてください。「これが花なんだ」と思うはずです。

さて、インターネットといえば、近年はAIの進歩が目覚ましく、スマートフォンで樹木の葉を撮影すれば、樹木の名前を瞬時に教えてくれる時代になりました。分からないことがあれば、AIに質問すれば答えが返ってき

ます。私も必要に応じてAIを活用することもあります。しかし、便利になった一方で、「知る」ということの意味も少しずつ変わってきているように感じます。「知る」＝「知識」から、「知る」＝「知識」＋「経験」が重要視されてきているような気がしています。

子ども樹木博士は、まさに樹木の名前を覚える「知識」を主とした活動ですが、その本当の魅力は「観察する力」を育てることにあります。葉の形や付き方、樹皮の模様、花や実のつき方など、木をよく見て比べることで、小さな違いに気付く力が養われます。この力は、自然観察だけでなく、日常生活のさまざまな場面でも役立つ力となります。

これからの社会では、AIを使いこなす力も必要になるでしょう。しかし、AIが正しいとは限りません。AIが提示してきた情報の真偽を判断するのは人間です。AIにすべてを任せるのではなく、自分自身の知識に加え、自分の目で見て、自分で感じ、自分で考える力は、ますます重要になります。自然は、その力を育ててくれる最高の先生だと思います。

まずは毎日通る道にある数本の樹木と向き合い、自然の変化を感じ、発見する喜びを味わってみませんか。まずは、お気に入りの樹木を見つけてください。

【目次】

巻頭言	AIがあれば「子ども樹木博士」はいらない？	日本大学生物資源科学部教授 杉浦 克明… 1
特集Ⅰ	ヤナギの話(2) - 日本産ヤナギの生態と河川環境 -	植物生態研究家 新山 馨… 2
特集Ⅱ	世界の森から(2) - スマトラ島で出会った世界最大の花ラフレシア -	森林インストラクター 深串 泰光… 3
シリーズⅠ	樹木名の話(41) - かんじんかなめのカンボク -	森林植物研究家 埴田 宏… 4
シリーズⅡ	観察会テンパリ日記(41)	森林インストラクター・樹木医 岩谷 美苗… 5
シリーズⅢ	東南アジアの木々たち(68) - 街の環境に適した木々たち③ -	自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史… 6
子ども樹木博士質問コーナー(83)	(一社)日本森林インストラクター協会 会長 寺嶋 嘉春… 7	
事務局だより		8

特集 I



ヤナギの話 (2)

—日本産ヤナギの生態と河川環境—



植物生態研究家 新山 馨

日本産ヤナギ属植物の半数以上は河畔性の種類です。その種数や量は四国や九州で少なく、東北、北海道と北に行くほど多いように思います。大きな理由は河川の水位変動の季節性にあります。ヤナギ類は早春に花を咲かせ、春のうちに種子を散布し（図1）、初夏には葉だけが茂る状態になります。このような生活史は、融雪による水位上昇中に開花し、水位が低下し河成堆積物が現れると同時に種子を散布するという、北方での巧みな生存戦略になっています。西南日本では生育期が梅雨や台風シーズンに重なるため、春に定着した実生の多くが洪水によって生き残れず、ヤナギの種数も量も少ないと考えられます。

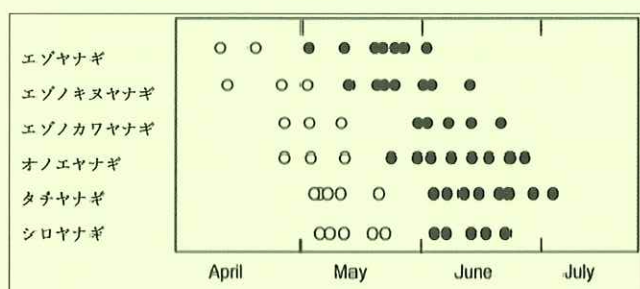


図1 北海道産ヤナギ属6種の開花(○)と種子散布時期(●)

1本の河川で見ると上流、中流、下流でヤナギの種類が入れ替わっていきます。北海道の石狩川では、上流でオオバヤナギ、ドロノキが優占し、中流ではシロヤナギ、エゾヤナギ、ネコヤナギが、下流ではオノエヤナギ、カワヤナギ、エゾノキヌヤナギ、タチヤナギが優占しています。これは主に土壌の粒度と水分環境で説明できます。上流ほど石礫が多く、中流域では砂質、下流では泥質と粒度は大きく変化します。そのため直根性で乾燥に強い種は上・中流に多く、下流に近づくと泥質で酸素環境の悪い土壌に耐えられるタチヤナギなどに入れ替わっていきます。

北海道では水位の低下による河成堆積物の出現に合わせて、エゾヤナギ、オノエヤナギ、タチヤナギの順に種子が散布され、すぐに発芽し実生が成長するので、堆積地の微地形を見ると少し小高いところにエゾヤナギ

ギ、中程にオノエヤナギ、水面に一番近いところにタチヤナギと、実生が比高（水位からの相対的な高さ）で棲み分けることになります（図2）。



図2 春の水位低下とともに河成堆積地に出現したヤナギ実生の帯状分布（北海道、空知川）

このように地理的な分布では水位の季節変動、1本の河川に沿った分布では土壌の粒度と酸素環境、微地形では水位低下と種子散布時期のずれがヤナギの空間分布を決める要因になっています。

一方で花が先に咲き、葉が出る頃には種子が散布され、その後に葉が茂るという生活史は、雌雄異株であることと相まって、ヤナギの種の同定を難しくしています。なぜなら雄と雌の別々の個体でまず花を確認し、葉が出たら再度、同じ雌雄個体の葉を確認しなければ、同定が難しいからです。最低でも雌雄の各個体を、違う時期に2回確認する必要があります。また雑種が多く報告されているので、ヤナギの種の同定は厄介と敬遠する方も多いかもしれません。しかし、野外での私の経験では雑種はかなり稀だと思います。たまには早春の楽しみとして、近くの川や花屋でヤナギの花でもゆっくり眺めてみてください。慣れれば花だけでも、ヤナギの種の同定がかなりできるようになりますよ。

特集Ⅱ

世界の森から (2)

—スマトラ島で出会った世界最大の花ラフレシア—



森林インストラクター 深串 泰光

世界最大級の花として知られるラフレシアは、最大で花の直径が1メートルを超えることもある東南アジアの完全寄生植物です。ポケモンの「ラフレシア」のモデルとしても知られ、子どもたちにもおなじみの存在です。ラフレシアの花は、「腐った肉のような匂い」や「汚れたトイレのような匂い」と表現される強烈な悪臭を放ちます。この匂いの主な成分にはインドールやスカトールなど、腐敗した肉や排泄物に近いにおいを持つ物質が含まれ、それらが混ざり合うことで非常に不快な匂いになります。ラフレシアがこんな悪臭を出すのは、ハエなど腐肉やフンに集まる昆虫を呼び寄せて、受粉を手伝ってもらうためです。赤黒い花びらにブツブツが並ぶ外見も、遠くから見ると大きな腐った肉片のように見え、腐肉に集まる昆虫をだます仕組みになっています。ラフレシアは、つぼみが目に見える大きさになってから開花するまで、およそ1年前後という長い時間がかかります。しかし、花が開いている期間はとても短く、完全に開いた状態は数日ほどしか続きません。その短い開花期間の中でも、特に咲き始めからしばらくの間に匂いが最も強くなるとされ、強い悪臭を放つ時間はおおよそ数時間程度と考えられています。時間がたつと匂いは次第に弱まり、花自体も急速に傷んでいきます。まとめるととても長い時間をかけて準備をし、わずか数日のあいだだけ、腐った肉そっくりの姿と匂いで昆虫をだます。ラフレシアの極端な悪臭は、限られたチャンスで確実に受粉するための、生き残り戦略だと言えます。

ラフレシアは、東南アジアのボルネオ島、スマトラ島、フィリピン諸島とマレー半島に分布するラフレシア科ラフレシア属の完全寄生植物です。ブドウ科のミツバガスラ属を宿主とし、水分、養分のすべてを寄生した植物から取っています。雌雄異株で、根や葉・茎はなく、花のみを咲かせます。インドネシア、スマトラ島の山中で最初に発見されたラフレシアは、のちにシンガポール開発の立役者として知られるトーマス・ラッフルズが、この地の植民地副総督として赴任していた時代の探検調査で世に知られることになりました。ラッフルズは動植物の採集と研究のために博物学者ジョセフ・アーノルドを雇い、1818年、スマトラ島マンナ川周辺での調査探検にともに出かけます。その途上で巨大な花ラフレシアが発見され、この功績を

たたえて、学名は二人の名にちなみ「ラフレシア・アーノルディ」と名付けられました。

クッシー（筆者）も、ここでラフレシアに出会ったのです。スマトラ島中央の南側に位置するブキティンギという街の北10kmほどの標高約700mの所にパタン・パルプ村があります。ここにはラフレシアが自生する自然保護区があります。到着して、キョロキョロしていると、ガイドと名乗る地元の人が声をかけてきた。「ラフレシアは、咲いていますよ」という。彼のサンダル履きのままの案内（有料）が始まった。糲を干してある村の通りを通り抜けると、稲刈りが終わったばかりの田んぼが見えてきました。ちょうど日本の里山のように小さな谷間に田んぼが広がります。山沿いの細い道を15分ほど歩き森に入ると、うっそうとした熱帯雨林の様相となりました。板根のある巨木やツル植物があらわれてきました。谷には小川が流れ、その川に沿って登ります。緩やかな斜面だが、湿気で汗が噴き出してくる頃に、突然、直径約80cmの血のように赤いラフレシアの花が現れました。匂いを採取しようと空のペットボトルを用意しましたが、思うように匂いを感じることはできませんでした。そこで花に触れてみると、意外にも人工の発泡スチロールのような感触があり驚かされました。これは、一般的な植物の花弁が水分を多く含んで柔らかいものが多いのに対し、ラフレシアの花弁に相当する部分は非常に肉厚で繊維質が詰まっているという構造的な違いによるものです。



ラフレシア スマトラにて (2013年12月18日)

シリーズⅠ

樹木名の話 (41) —かんじんかなめのカンボク—



森林植物研究家 埴田 宏

カンボクは湿原の周辺などに生育する落葉低木・小高木で樹高は2~4 m。先が三つに裂けた葉の形はカエデによく似ています。初夏の林縁に、5枚の大きな白いガク片の飾り花を周囲に置き、中心に小さな両性花が集まる「額縁咲き」の花序、遠目にも目立ちます。ちょっと見、アジサイ類に似ていますが、果実を見るとガマズミ類だとわかります。

自生地は、広島県以东の本州、北海道、大陸東部に普通に見られます。古書には江戸によく植えられたとされ、エドノキという方言名もあります。



額縁咲きの白い花はガクアジサイに似る

果実は葉が紅葉する少し前に赤く熟します。栃木県の方言名にトリハマズ（鳥が食べない）というのがあるように、他の餌が尽きるまで、野鳥はこの実を残すようです。おかげで、雪が積もる頃まで美しい色を楽しむことができます。

植物にも「他人の空似」がいくつか知られています。湿原の周辺には、カンボクに似て、葉が三裂する樹木が他に二種あります。ムクロジ科で葉が対生のカラコギカエテとバラ科で葉が互生のズミがそうです。

葉序が分からないように、大きさを揃えた葉を1枚ずつ並べると、自分でも混乱します。子ども樹木博士

の試験には花や実の着いた枝を並べましょう。

カンボクという名は「肝木」の音読みであることは間違いなさそうです。江戸時代中期の『大和本草』（貝原益軒, 1709）には「正字（漢名）未詳、瘍医（外科医のこと）が用いる、ヤツデやニワトコも肝木とされているが誤りである」と書かれていますが、なぜ「肝」の字を使うのか。『牧野図鑑』にも「意味は不明」とされています。これについて、江戸時代の『本草或問』や『因伯産物薬効録』を読み解いた深津正（1993）がカンボクが打撲や切り傷に対して目に見えて優れていることから、「人命にかかわる肝要な木として、肝木の名を得た」と推理しています。肝臓の「肝」ではないらしい。

中国名は鶏樹条、現代でも血行促進、腫れを引かせ、関節痛、打撲・捻挫、できものなどの治療に用いるとのことですが、『本草綱目』（李時珍, 1596）には見当たりませんでした。生薬としての利用は中国からの伝来ではないのか、ちょっと不思議です。

材は柔らかいが、繊維が通っている。江戸時代には、箸のように細く割り、先を煮てほぐしたものを歯磨き用の楊枝として使っていたそうです。



色づいた果実、対生の葉も紅葉しつつある

シリーズⅡ

観察会テンパリ日記 (41)



森林インストラクター・樹木医 岩谷 美苗

毎年夏に子ども霞が関見学デーと言うのがあり、子ども樹木博士のブースも出展し、今年は2日間で400人越えの参加者でした。10種の生の枝葉を見て触って嗅いで、樹種を当てるクイズです。インストラクターが子どもたちと一緒に葉などを観察し、シートに書き込みます。私がシートを作ったのですが、問題勃発。

①ケヤキ、最初にしては難しすぎ

葉の形が結構よくある形なので、コナラやアオダモと間違える子が続出。見方によっては「葉裏の色が白い」と言う子もいて、スダジイと思う子も。インストラクター泣かせの題材でした。ケヤキの種が「銘菓ひよ子」だと笑ってほしかったのですが、子どもらは「ヒヨコじゃない！抜けた歯だよ。」と、なるほどー勉強になります。

最初からケヤキやコナラなどレベルが高い木ではなく、誰でもわかるイチヨウやモミジなどを持ってくるべきでした。あと、思ったのですが、同じ木でも葉の大きさが違うモデルさんを用意して、「この中で、サクラはどれとどれとどれ？」とか、葉っぱには変異があると伝えるクイズもいいんじゃないかと思いました。

②スダジイの殻斗は鬼太郎のカツラと書いたが、鬼太郎が通じない問題

鬼太郎はアニメで最近もやっていたと思ったのです

が、最近の子はテレビを見ていません。鬼太郎が通じないのです。次はロン毛のカツラにしようかな。

③モデルさんが、そうでない問題

サクラの蜜腺を観察してもらいたかったのですが、持ってきたサクラの蜜腺が小さすぎてわからない。蜜腺という言葉も難しすぎる。あと、ソメイヨシノの葉柄の毛を見てもらいたかったのですが、毛があまりないモデルさん（葉）で、これも説明に困ります。

さらに、1日200人以上も来れば、モデルさん（枝葉や実）が思った以上に早く疲弊してきます。インストラクター「ツバキの実ツルツルでしょー」子ども「ザラザラだよ！」つるつるのツバキの実が、いつの間にかザラザラに！モデル泣かせ？モデルもシフト制が必要でした。

私はアオダモの樹液で絵を描かせていましたが、400人以上書いて、うんこを書く小学生が3人しかいませんでした。だいたい小学生男子は書きがちですが、林野庁だし、子どもたちもお役所の空気を読んでいるのでしょうか？こういうの、データをとったらおもしろそうです。

👉 AI 漫画の葉っぱが、ケヤキやコナラに見えなくてすいません。暖かい目で見てください。



シリーズⅢ

東南アジアの木々たち (68)

—街の環境に適した木々たち③—



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

“夏が本気を出してきた!”。先日、そんな広告のキャッチコピーを地下鉄で目にしました。これ以上、本気を出さないでほしいものです…。東京 23 区の樹冠被覆率（木の枝葉が地面を覆う割合）はこの十数年間で、東京ドーム 256 個分の緑陰（木陰）が失われたことが調査報告書によって判っておりますから、余計にそう思います。

日陰をつくってくれる大切な木々たちが、それほど減ってしまった理由には幾つかあり、樹木そのものの維持管理にお金がかかるため、台風などで倒木被害を出したくないため、大規模な再開発事業の妨げになるため、などが挙げられています。また一方で、街路樹

のような“過酷な環境”に植栽される樹木は、これまで用いられて来た造園樹種では“酷暑”に耐えきれないものも出始めています。更に、海外からもたらされた“新たな病害虫”にも晒されており、とても難しい課題を、現代社会の私たちに投げかけています…。

世界に目を向けると、地球的規模で起っている気候変動や、都市部のヒートアイランド現象などの課題を前に、世界各地の大都市では数十万～数百万本単位で樹木を新たに植えて、暑熱軽減（熱中症対策）・健康的な住環境・防災・都市景観・生態系（生物多様性）など様々な面を考慮しながら気候対策が推し進められています。



さて、この6～8月は、東京都内の豊洲方面や夢の島、葛西臨海公園方面などを引率でめぐってありました。途中で見掛けた街路に木陰をつくってくれる木々たちは、西日本などに多く見られるセンダンの木や、沖縄・台湾・東南アジアなどに分布するシマトネリコなどが活躍中でした。また、緑地帯に植えられたクワズイモや月桃の株に花が咲いている様子などもご覧頂くと、皆さんかなり驚いておられました。なんだか、南国の沖縄みたいです…って。(^-^)

今から二十数年前、都内の国分寺市で造園樹木を栽培する植木生産者の圃場を訪ねたことがありました。当時は、まだ冬季の冷え込みが強く、冬芽（裸芽）が寒さで全部つぶれてしまうからシマトネリコはお勧め出来ないんです、とのお話しでした。あれから、二十数年…。今はなんだか沖縄みたいです。

子ども樹木博士質問コーナー(83)

一般社団法人日本森林インストラクター協会 会長 寺嶋 嘉春



Q 夏休みに三重県の伊勢神宮にお参りに行きました。神宮では、千年以上にわたって毎日朝夕、神様にお食事を供える儀式があって、その時、特別な木の葉を敷いて供えると聞きました。どんな樹木の葉か教えてください。(中学2年生)

A 伊勢神宮は、日本の神社の大もととされる神社で、正式には、地名をつけず「神宮(じんぐう)」といいます。20年ごとに外宮(げくう)や内宮(ないくう)などを移転する「式年遷宮(しきねんせんぐう)」が行われ、第63回2033年の遷宮に向けて、昨年からは木曾や裏木曾の神宮備林からヒノキの大木が伐り出され、今年は、伊勢まで運ぶ行事「御木曳(おきひき)」が行われました。



上の写真は、今年7月25日の五十鈴川(いすずかわ)での「川曳(かわびき)」の様子です。

▶神饌(みけ)に用いる葉

神様にお供えする食事を神饌(みけ)といいます。千年以上にわたり毎日続けられる行事を「日別朝夕大神饌祭(ひごとあさゆうおおみけさい)」と呼ばれています。このとき、供物(お供えする食物)は、陶器(かわらけ)の上に載せられますが、神宮で「トクラベ」と呼ばれる木の葉が敷かれています。「トクラベ」の語源は不明ですが必ず「トクラベ」の葉が用いられます。植物図鑑では、ハイノキ科のミミズバイという木です。

右上の写真は、今年の7月に内宮の近くで見られた「ミミズバイ」で、白いブラシのような花を咲かせていました。

▶なぜ、ミミズバイの葉を用いるのか

神宮での毎日の神様の食事では、御箸(みはし)や



御杯(みさかづき)の下にミミズバイの葉を敷くことが伝統となっていますが、ミミズバイの葉が選ばれた理由は、

① 防腐性

神宮博物館によれば、葉を一枚敷くだけで食物の傷みが遅くなる「天然の防腐剤」として機能するため、古代から重宝されてきたとされています。

② 耐久性・柔軟性

厚みがあり、破れにくく、敷き葉に適する。

③ 神事に適した象徴性

神と人を隔てる「依り代(よりしろ)」的な意味を持つと解釈されることもあります。

以上の理由に加えて、ミミズバイは神宮境内に多く自生していること。容易に土に戻ることで、葉の縁にギザギザの鋸歯がなくぬめらかで、大きさや形がそろっており、強度や厚みが適当で神事にふさわしいなどの理由が考えられます。

▶葉の利用は地球環境の保全につながる

以上のように、植物の葉は、軽い、強い、防腐性がある、適度な大きさ、包みやすい、美しい、加工不要でそのまま使える。そして、葉は土にかえるため、プラスチックごみ問題や使い捨て容器の環境負荷、CO₂排出などを大幅に減らせます。

すなわち、植物の葉は、古代だけでなく 現代・未来の食文化や素材開発においても大きな可能性を持つ優れた素材です。

みなさんも、すぐれた自然素材である葉を暮らしの中に取り入れ、楽しみながら、環境にやさしい社会に役立ててください。

● ● 事務局だより ● ●

◆令和7年度子ども樹木博士認定活動の実施状況

	実施日	実施団体等	都道府県	募集人数	参加人数	摘要
1	7. 6. 1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 田無演習林	東京都	40	26	田無演習林
2	7. 7. 6	学習院女子大学環境教育センター	東京都	40	36	学習院女子大学
3	7. 7.12	東京農工大学	東京都	40	70	東京農工大学農学部（府中キャンパス）
4	7. 7.27	佐野市 東京農工大学フィールドミュージアム唐沢山	栃木県	30	38	東京農工大学フィールドミュージアム唐沢山
5	7. 7.30	エコ食楽部（クラブ）	群馬県	10	9	前橋市上川淵公民館
6	7. 8. 2	（公財）山梨県緑化推進機構	山梨県	20	16	河口湖フィールドセンター
7	7. 8. 3	福島民友新聞社・福島森林管理署	福島県	50	21	南澤国有林（福島市）
8	7. 8. 6	子ども樹木博士認定活動推進協議会	東京都	205	205	農林水産省（こども霞が関見学デー）
9	7. 8. 6	真庭森林組合	岡山県	10	10	勝山美しい森遊歩道（真庭市菅谷地）
10	7. 8. 7	子ども樹木博士認定活動推進協議会	東京都	206	206	農林水産省（こども霞が関見学デー）
11	7. 8.17	（公財）山梨県緑化推進機構	山梨県	20	14	武田の杜
12	7. 8.20	こだまこまち Project	高知県	10	9	本の森図書館、越知町立越知小学校
13	7. 8.22	新潟県立大潟水と森公園 里山に親しむ会	新潟県	35	35	大潟水と森公園
14	7. 8.27	株式会社日比谷花壇	東京都	20	13	都立日比谷公園
15	7. 9.23	株式会社日比谷花壇	東京都	20	10	都立日比谷花壇
16	7.10.19	丹波篠山市役所農都創造部森づくり課	兵庫県	20	5	せんじゅの森（丹波篠山市今田町）
17	7.11.16	森林インストラクターしずおか	静岡県	20	15	県立美術館の森
18	7.11. 6	（公財）川崎市公園緑地協会	神奈川県	20	21	夢見ヶ崎動物公園（川崎市）
				816	759	

（注）1. 実施団体から事務局に報告のあったもの及び事務局が独自に把握したものである。

2. 報告等が参加者人数のみの場合は募集人数も同数として整理、募集人数のみの場合は参加人数も同数として整理している。

◆実施結果のご報告のお願い

子ども樹木博士認定活動（親子や大人を対象としたものも含みます。）を実施しましたら、当協議会会員、非会員を問わず、実施結果のご報告をお願いします。

報告用紙は、右記の URL のホームページから Word の用紙をダウンロードできます。報告用紙がない場合は、①実施団体名、②実施年月日、③募集人数、④参加人数、⑤対象者（小学生、親子など）、⑥実施場所を記載したメモを右記の FAX 又はメールで子ども樹木博士認定活動推進協議会までお送りください。お手数をおかけしますがよろしくお願いいたします。

子ども樹木博士ニュース

2026 年 9 月 1 日 No.104

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6 階

一般社団法人全国森林レクリエーション協会内

TEL: 03-5840-7471 FAX: 03-5840-7472

E-mail: kodomohakase@shinrinreku.jp

URL: <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>

<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>